

Messor wasmanni

Krausse, 1910

イタリアとバルカン半島の日当たりのよい草地にすむ、頭の大きな種子収穫アリで、巣へ向かうきちんとした行列を作り、名前にはいまでも慎重にcf.が付けられています。



写真：Philipp Hoenle (myrmecophil), CC0 1.0

ひと目でわかる情報



巣の温度
22-26 °C

巣の中



巣の湿度
50-70 %

穀物庫：30-50 %



休眠
12-15 °C

12月 - 2月



結婚飛行
9月 - 11月

雨のあと



働きアリ
4-8 mm

大型働きアリは最大10 mm



女王
12-14 mm

女王は1匹



コロニーの規模
働きアリ5,000匹規模

成長速度：普通



脱走リスク
低い

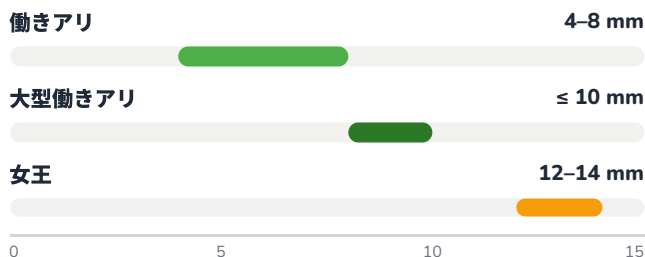
おとなしく、めったに脱走しません

1年をひと目で



月は温帯ヨーロッパと地中海地域の目安です。正確な日は天気で決まるため、お住まいの地域では飛行が早まったり遅れたりすることがあります。

同じ縮尺での大きさ



飼育の早見表

食べ物

種子

昆虫

砂糖

おすすめの巣

- Ytongの巣
- アクリル製の巣
- 自然再現型のセットアップ

この評価の理由

- ◎ おとなしく、めったに脱走しない働きアリ
- ◎ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ◎ 種子を貯めるので、餌やりを忘れても問題ありません
- ⚠ 乾いた穀物庫と湿ったブルード室のように、湿度の勾配が必要です

飼育者からのメモ

ヒント

穂から外した種子だけでなく、ときどきイネ科の草の穂をそのまま与えましょう。野生では、このアリは地面からだけでなく、植物から直接種子を取るからです。

注意

秋の飛行のあとに捕まえた女王アリは、ふつう冬の休息が明けた春になってから産卵を始めるので、冬のあいだ空っぽに見える試験管は普通のことです。様子を見に行かず、暗くて静かな状態を保ちましょう。